

(様式6-1)事後評価シート

建設部

道路管理課

事業名	交通安全施設整備			路河川名等	(一)車屋大久保線				
番号	8	市町村名	伊那市	箇所名(ふりがな)	殿島(とのしま)				
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>当該地は、住居のほか複数の公共施設があり地区の中心地となっている。また、周辺には小・中学校、保育所、児童センター、児童クラブ等があるが、現道は未改良であり歩道も整備されていなかった。地元には対策委員会が組織されており、本工区の改良に対する要望は非常に強かった。</p> <p>平成9年度から地元説明を行い、平成12年度までに基本方針について地元へ了解を得た。平成13年度に歩道幅員を3.5m→2.5mに変更した案を対策委員会に提示し、了解を得て詳細設計を行った。平成15年度に詳細設計の内容について対策委員会及び地権者から了解を得た。</p>								
事業目的	歩道を整備し、歩行者の安全確保を図る。								
事業概要	当初工期	H17～H21	費用対効果	—	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	最終工期	H17～H22	完了後経過年数	3	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源
	当初計画内容(主な工種)	歩道設置工 L=600m、W=2.5m			500,000	300,000	—	—	—
	最終事業実績(主な工種)	歩道設置工 L=600m、W=2.5m			666,000	399,600	—	—	—
事業期間の延長、短縮理由と分析	用地・補償費を調査算定したところ、当初見込額を上回ったため、事業費が増加し、事業期間が延長となった。								
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	実際に支障物件等の補償調査を実施したところ、当初見込んだ補償内容を上回ったため、補償費が増加した。								
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)				評価				
	直接的効果(定量的・定性的)	歩道が確保され、児童が安全に通行できるようになった。			B				
間接的効果(定量的・定性的)	歩道設置に伴う車道改良により、車のすれ違いに支障なく安全に通行できるようになった。								
②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)				評価				
	通学路に指定され、利用されるようになった。 車が支障なく通行できるようになり、排出ガスが減少し、大気汚染が軽減された。				A				
③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)				評価				
	建設事務所が維持管理を行っている。				B				
④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)				評価				
	通学路が確保され、児童が安全に通行でき、非常に満足している。 南側についても引き続き改良を要望する。				A				
⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)				評価				
	地元が歩道沿いに花壇を設置しており、沿道美化に寄与している。				B				
改善措置の必要性	特になし。								
今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	地元の評価は高く、今後も歩道設置は必要と考える。								
部意見	安全・安心な道路が確保されたことで、地域住民から高い評価を受け、事業効果は高い。			行政改革課意見	歩行者の安全が確保され、交通安全効果が認められる。				

事業名	交通安全施設整備		路河川名等	(一)車屋大久保線	
番号	8	市町村名	伊那市	箇所名(ふりがな)	殿島(とのしま)

【事業計画時の写真】



【事業完了後(現況)の写真】

